

## 大雪、でも、雪に負けるな 記録的な大雪が続いています



### 小国町内各所現在の積雪

2月14日現在

小国（大宮）	239cm
沼沢	370cm
五味沢	283cm
叶水	385cm
玉川	302cm
小玉川	382cm

長期にわたる寒気の流入による大雪が日本列島を襲い、特に日本海側では北地方を中心に大きな被害が出ている。

小国町も積雪量が昨年の2倍を超えており、例外ではない。この豪雪で毎日の除雪、雪下ろしに苦勞されている家庭も多くあり、住民には疲勞の色が濃くなっている。路面の圧雪凍結による事故や車の立ち往生等のトラブルも多発している。また、雪の壁のために見通しが悪く歩行者にとっても危険な状況が続いている。また、低温による凍結のために、上水道の取水量が確保できず、節水の呼びかけが継続的に行われている。

小国中学校では、連日、安全指導担当の伊藤利広教諭が校内放送を通じて、冬道の交通安全等の呼びかけを行い注意喚起を行っている。安全意識を高く持ち、安全な登下校に心がけて欲しい。

豪雪と呼ばれるほどの大雪はこれまで何度かあった。気象庁が豪雪として命名した大雪はこれまで3回。

1つ目は昭和38年1月から2月にかけて北陸、東北地方を襲った38豪雪。積雪は気象庁の観測史上最高を記録し、雪崩や落雪、凍死などによる死者・行方不明者231名、住宅の全半壊6000棟という記録的な被害をもたらした過去最悪の豪雪である。

2つ目は昭和55年12月から昭和56年3月にかけて長期にわたって東北、北陸を襲った56豪雪。雪による死者・行方不明者152名、住宅の全半壊470棟という被害が出た。長期にわたって被害が出たことから、経済的な損失が非常に大きかった豪雪である。

3つ目は平成17年12月から平成18年2月にかけて北海道から九州までの広い範囲を襲った18豪雪。死者・行方不明者152名、負傷者2100名、住宅の全半壊46棟の被害があった。死者の70%が雪下ろし中の事故死であり、高齢者が大半であった。急速に進む少子高齢化社会を象徴するつような被害だった。

今回の大雪は積雪量からすると18豪雪を超えており、30豪雪と命名される可能性もある。

# 小国中 NEWS

平成30年2月21日

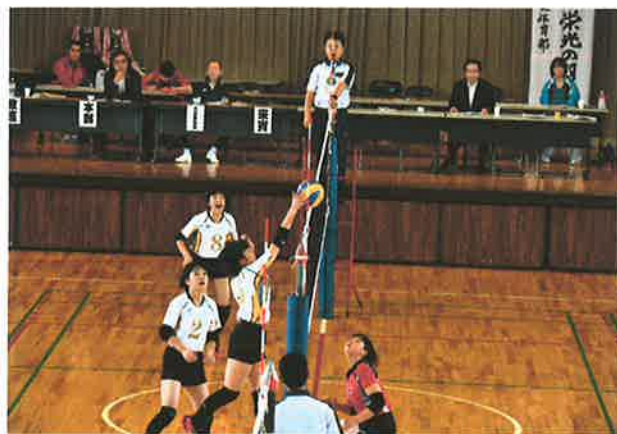
発行 小国中学校内

ヤギ明々プレス社

Pixta.jp - 21616890

## 頑張れ女子バレー部

### 山形県中学校選抜バレーボール大会



2月24日（土）、25日（日）小国中女子バレーボール部が県総合運動公園アリーナを会場に開催される山形県中学校選抜バレーボール大会に西置賜地区第2代表として出場する。本大会は、県内各地区で行われた予選会で上位に入賞したチームが、一堂に会して行われる大会である。昨年秋の新人戦以来、冬場の練習で積み上げてきた力を確かめる場であり、7月の県大会を見据えながら、県内の強豪校が県の頂点を目指し、しのぎをけずるハイレベルな大会である。

小国中女子バレー部は、1月13日の代表選考を兼ねた山形中央信用組合理事長杯で、県新人大会決勝大会第3位の長井北中学校をフルセットの熱戦の末に破り準優勝し、代表となった。監督の樋口将徳先生、齋藤秀隆コーチらの指導の下、日ごろの厳しい練習に耐え、実力を蓄えてきた成果であり、その努力に大きな拍手を贈りたい。この大会を大きな経験として、さらなる成長ができるよう、持てる力を発揮し、はつらつと元気よく戦ってきてほしいものである。本大会には西置賜第1代表として長井南中学校も出場する。

## ボトルキャップ回収 214kg

### 37人分のポリオワクチンを寄贈



#### 「ポリオ」ってどんな病気ですか？

ポリオウィルスが体内に進入することによって発症する感染症。多くの場合は免疫力の弱い乳幼児が発症し、人から人に感染します。ウィルスに感染すると手足の麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまう場合があります。現在この麻痺を完全に治療する方法は見つかっておらず、感染の予防が非常に大切です。また、重篤な症状になると臓器の機能不全などにより死に至ることもある病気です。

日本では1980年の1例を最後に感染者は報告されていませんが、アフリカ、南アジア等の国々ではいまだに乳幼児の感染が多く報告されており、世界各国でボランティア活動による支援活動が行われています。

#### なぜ山形銀行に寄贈するのですか？

山形銀行では、ポリオワクチン寄贈活動の趣旨に賛同し、県内各地にある80以上の支店でボトルキャップの回収活動を行っているほか、学校や様々な団体が回収したボトルキャップを引き受け、ワクチンを必要としている国々に寄贈する仕事を行っています。

山形銀行の各支店に寄せられたボトルキャップはいったん山形銀行本店の倉庫に集められます。その後、売却されその収益がポリオワクチン購入の資金となり、必要な国々へ送られることとなります。

山形銀行は社会貢献活動として、集めたボトルキャップをワクチンに換え、必要とする国々へ送る様々な手続きや作業を私たちの代わりに引き受けてくれているのです。

2月28日（水）、全校朝会の場で、生徒会活動の一環として取り組んできた「ボトルキャップ回収活動」の成果として集められた、214kgのボトルキャップ贈呈式が行われた。ボトルキャップを引き受ける山形銀行小国支店から、長沢伸一支店長、五十嵐寛営業課長が来校し、ボトルキャップを受け取った。贈呈式の中で、長沢支店長は、ポリオという感染症について触れながら、「小国中生の善意と努力を確かにお預かりします。」とあいさつした。

ボトルキャップの回収活動は、生徒会活動の3本柱の1つに位置づけるボランティア活動の一環として行われ、数回の強調期間を設けながら1年を通して取り組んできた活動である。その活動が、37人分のポリオワクチンとして活用される。大きな価値のある活動になったことを喜びたい。

また、ボトルキャップ回収活動は、資源の再利用、リサイクルの観点からも大きな意義のある活動である。今後も、小国中生徒会の大切な活動として継続されることを期待したい。

贈呈式後、八木幸夫校長と懇談した長沢支店長は次のように小国中生の活動への期待を述べた。

「ボトルキャップ回収に限らず、生徒の皆さんの積極的な活動が素晴らしい。地域の企業として、様々な面で応援したい。協力できることがあれば、ぜひ声を掛けて欲しい。」

小国中生の活動が地域に確かに根を張っている。